

聖マリアンナ医大新聞

聖マリアンナ医科大学・新聞編集委員会 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1

☎044-977-8111(代) 総務課
http://www.marianna-u.ac.jp

主な内容

新年のごあいさつ 春夏秋冬 (第1面)
新春によせて (第2・3面)
創立者等追悼ミサ / 解剖・遺体追悼ミサ / 前田賞 (第4面)
外来棟・エントランス棟祝賀式 / チャペル祝賀式 (第5面)
外来棟・エントランス棟施設紹介 (第6・7面)
教室・施設紹介 / 緑灯式 / 他 (第8面)
寄付金 (第9面)
第67回東日本医科学生総合体育大会 (第10・11面)
世界に羽ばたく学生達を訪問 / 附属病院・施設だより (第12面)



私学法改正にあたって

理事長 明石 勝也

新年明けましておめでとうございます。今年も皆様と共に聖マリアンナ医科大学も恵み多い年となりますように活動してまいりましょう。

菅生キャンパスリニューアル計画の中心である大学病院建て替えも、外来棟の改修、エントランス棟の完成をもってひと山越えたことになりました。これから旧病院本館解体が始まり、外構工事によって新しいバスロータリーが完成するまでまだしばらくの時間を要しますが、設備・機能の充実にご期待ください。

今年は令和5年に成立した新しい改正私学法の施行年にあたり、本学においても昨年寄附行為の改正を済ませ、本年6月から新しい理事、評議員による新しいガバナンス体制がスタートします。文部科学省によるところの改正の趣旨は、我が国の公教育を支える私立学校が、社会の信頼を得て、一層発展していくため、社会の要請に応え得る実効性あるガバナンス改革を推進するためとされています。具体的には理事会と評議員会の権限関係が大きく変わり、評議員会における理事会のチェック機能が高まります。そのため、理事と評議員の兼任は認められず、業務の執行(理事会)と監視・監督(評議員等)の役割を分離することを基本的な考えとしていますが、お互いが相互に牽制し合いながらも建設的に協力し、時には議論し、充実した学校運営を目指すものとされています。具体的に本学のような単科医科大学において、医学教育、研究、診療に造詣の深い評議員を学外から選考することは容易ではありませんが、本学のさらなる発展のために、建学の理念を理解し、真摯に貢献していただける方の就任に期待をしております。

本年も本学の新たな飛躍にご期待とご協力のほど、何卒宜しくお願いいたします。

謹

賀

新

年

2025

St.Marianna
University
School of Medicine

新年を迎えて



学長 北川 博昭

新年明けましておめでとうございます。健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。さて、人間は喜怒哀楽を顔で示すことができる唯一の動物で、大切な感情の表現方法だと思います。3年間はコロナ感染の影響から国民がマスク生活を強いられ、喜怒哀楽を対面で示すことができませんでした。笑顔は人の心を豊かにし、病院で働く全ての人が笑顔で過ごすことのできる環境が医療従事者のゴールになれば良いと思います。今では一昨年オープンした新病院も自然と私たちの生活の一部になり、今年はエントランス棟を含めた新外来棟のオープンなど創立50周年以降の聖マリアンナ医科大学は明るい話題に包まれています。世の中は私たちが経験したことのない円安、物価高騰で経済的に苦戦を強いられ、この時期に建て替えが終了したことはまさに好機逸すべからずと思います。これからマスクを外した笑顔を見せることのできる生活は大学にとっても夢の始まりであります。

一昨年は卯年で飛び跳ね飛躍し、昨年の辰年で登竜門をくぐり抜け天まで昇って龍になり、今年は巳年です。「蛇は一寸にして人を呑む」と言われるように小さな蛇でも油断をすれば人を飲み込むほどの力を発揮します。つまり、聖マリアンナ医科大学は神奈川県だけでなく世界で力を発揮できる大学に飛躍します。また、「蛇の道は蛇」ということわざもありますが、これは同じ仲間のやったことならば、他人にはわからなくても、その仲間達にはすぐわかると思うとえです。今年はこの知恵を活かし、自分の得意分野や経験を活かしてさらなる成長を目指していきたいと思えます。ギリシャ神話に登場するアスクレピオスは、天の星・蛇遣い座の守護神で医学の神といわれています。アスクレピオスがいつも蛇の巻きついた杖を持っていたことから、その杖が医学の象徴となり、世界保健機構(WHO)のロゴでも採用され、蛇と杖は国際的に共通のものになりました。長蛇を逸さず素晴らしい機会を逃さない一年となりますことを願っています。

2025.1.6.
OPEN

聖マリアンナ医科大学病院
外来棟
エントランス棟

春夏秋冬

景気の悪い話

明けましておめでとうございます。本年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

年頭、景気の良い話の一つでもしたいところですが、景気が悪いのだ

からできるはずもなし。いっそのこと、景気の悪い話をしようかと、ここに筆を執りました。

かつて、私の実家は、田舎町で飲食店を営んでいました。父親が思いつきで始めた商売らしく、素人経営なのでうまくいくはずありません。案の定、私が小学生のときに破綻してしまい、まあありがちな借金地獄に

陥ったわけです。お店やお金がなくなるというのは、なんてみじめであろうかと、子供心に強く感じたものでした。

ですが、否応なく借金を返済せねばならない状況は、まれに人間を強くするようです。だらしない父親は、飲食店一本をスバッと諦めて、近所の水道会社で汗水垂らして働くようになりました。

母親はスーパーマーケットのパートに出て、惣菜をせっせと作り続けました。私はというと、生きる上で「よく考えること」が必要だと気が付き、勉強嫌いやから一歩前に歩み始めたのでした。そんなこんなで、とある一つの家族が、借金のために人生を真剣に生きるようになり、鍛えられ、強くなることがあったのです。

ひるがえって、本学の場合はどうでしょうか。たびたび「金がねえ、金がねえ」と周知され、粘っこい危機感に取り込まれています。しかし、私個人としては、皆さんほど危機感を感じていないのですね(怒られそうですが)。誰も彼もが必死になって知恵を出し、懸命に働くことで、われわれが自らを鍛え、強くなって、最

後はなるようになるかと確信しているからです。

借金生活はいまでも嫌ですが、懸命に働く大人たちがいることは、なんと心強く、素晴らしいことかと、常々感じている次第です。

解剖学(人体構造)
主任教授 水嶋崇一郎

新春によせて



新年のご挨拶

医学部長 加藤 智啓
生化学 主任教授

明けましておめでとうございます。昨年、コロナは一応収束し日本の社会は概ね以前の状態に戻っておりますが、2022年にロシアのウクライナ侵攻で始まったウクライナ戦争はまったく収束する兆しのないまま、丸3年になろうとしています。さらに中東地域の様々な場所で新たな戦闘が起り、また激化しているように報道されています。世界の多くの場所で日々人命が失われ、あるいは人が傷ついていることには心を痛めるばかりで、一日も早く平和が訪れ、社会が安定することを願っております。このような情勢の下、円安もあり、本邦の社会生活において、燃料や食料、その他の生活必需品を中心に価格が高騰しており、すべての物が2割も3割も高くなったように感じます。しかしながら本邦の医療システムにおいては、診療報酬の伸びが物

価高騰にまったく追いついておらず、多くの医療機関が経営に四苦八苦しており、医療の供給体制そのものに影響が出かねない状況になっております。大学医学部も例外でなく、特に附属病院等での医療収入を主要な財源とする私立医科大学にあっては、こうした状態が長く続くと教育体制の維持充実に影響してくることが懸念されます。将来の医療を担う「医師の育成」という医学部の使命をしっかりと果たすため、現在の状況が早急に改善されることを願っております。

本学医学部では、良医を育てることに注力してまいりました。昨年2月の医師国家試験では新卒生の合格率が98%を超え、医師の育成という医学部の基本的使命を果たすことを得ております。本学カリキュラムでは、人間の一生を支える社会の医療

システムを学ぶという観点から、第1学年から「早期体験実習」を行い、マタニティクリニック、幼稚園、地域医療機関、高齢者介護施設を順次訪れ実習します。本学学生を受入れてくださっている施設の方々に、この場を借りて篤くお礼申し上げます。また、第4学年の秋には、医学の知識を問う「CBT」および医療実技を問う「OSCE」からなる共用試験が行われます。これら共用試験は公的化されており、共用試験を統括する機関から派遣される監督者・評価者と共に厳正に行われ、合否判定は全国で統一された基準で行われるなど、準国家試験としての役割を担っています。学生がこれに合格すると「臨床実習生(医学)」に認定され、新年1月から診療参加型臨床実習を開始します。医療現場では医療スタッフの一員として医学・医療を学ぶことが求められます。これには教員の熱心な指導と現場職員の理解が必要で、学外医療施設等にも多大な協力をいただいております。特に学外でご協力くださっている方々にこの紙面を借りて感謝申し上げます。

そのほか、一昨年度導入した電子教科書システム「iSmart」により、学生が個人ですべての教科書を購入しなくても、医学の電子教科書に速やかにアクセスし医学知識を獲得できる学習環境が整備され、学生の利用も増えております。課外活動においても東日本医科学学生総合体育大会の開催をはじめコロナ前の水準に回復しつつある状況で、大学としても課外活動を盛り上げてまいります。学生同士の交流が深まることで信頼しあう仲間が増えていくと期待しています。

学生諸君には「自ら学ぶ」あるいは「自分を育てる」姿勢の重要性をしっかりと自覚してもらうとともに、教職員ははじめ周囲の方々には、「自ら学ぶ」あるいは「自分を育てる」学生を支援するためのご理解ご協力を切に願います。今年も本学学生の学問成就と本学の発展のため努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

大学病院 病院長 大坪 毅人
消化器・一般外科学 主任教授

新年あけましておめでとうございます。

昨年の大きな社会の変化として医師の働き方改革と諸物価の高騰が挙げられます。

医師の働き方改革について川崎北部医療圏のような人口増加地域では、働き方改革により救急医療の萎縮が懸念されておりましたが、当院は医療提供体制を萎縮することなく対応することができました。救急車の受け入れ件数についてはむしろ以前より増加し、川崎北部の地域医療を守り抜いたといえます。

一方で、昨春に2年に1度の診療報酬の改定が行われましたが、とても今般の物価高騰に対応できるようなものではなく、多くの医療機関において医薬品、医療材料費等の高騰が経営を圧迫することとなっております。当院におきましては、昨年度のはじめより、地域の中核病院として高度急性期医療を提供していくためには、生き残りをかけて『高稼働の文化をつくる』ことを教職員にお願いしてまいりました。その甲斐あって何とか収支を維持することが

できました。今後も教職員が生かすことをもって働くことができ、社会から求められる医療を提供するため、厳しい社会情勢のなか経営改善に取り組んでまいります。

今年1月6日より、旧病院別館を改修した新外来棟及び、新外来棟と入院棟をつなぐエントランス棟での診療が始まります。新外来棟では新しい呼び出しシステムを導入するなど、患者さんの利便性を改善するための様々な工夫が凝らされております。エントランス棟には聖堂、待合スペースのほか、これまで不足していた、24時間対応のコンビニエンスストア、喫茶スペースなどが用意され、患者さんや教職員にとってアクセシビリティの向上につながるものと思われまふ。

学生キャンパスリニューアル計画は今後旧病院本館の解体工事に移ってまいります。解体が終了するまでの期間は外来棟や入院棟への動線が悪く、患者さんにご迷惑をおかけすることとなりますが、できる限りのところで対応してまいりますので、ご理解いただきたくお願い申し上げます。

令和7年
新年あけましておめでとうございます大学院医学研究科長 遊道 和雄
大学院 難治性疾患病態制御学 大学院教授

明けましておめでとうございます。平素より大学院医学研究科の運営・教育にご尽力、ご高配をたまり、誠にありがとうございます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学大学院では、建学の精神にある「専門的研究の成果を人類の福祉に活かしていく」ことに注力し、これまで多くの若手研究者、次世代を担う人材を輩出してまいりました。国内外における急激な情勢の変化、ならびに働き方の多様化と変革が進む中、大学には今後も多くの成果を社会還元し、国内外の医学・医療レベルの向上と人類福祉に役立つように邁進することが求められております。こうした社会的ニーズに対して大学院は、医学に関する学術の理論、応用研究の知識、高度の専門性が求められる業務を担うための卓越した能力と深い学識、高い倫理観、国際的な視野を備え、文化の進展に寄与する医学研究者・医学教育者・医学に係わる高度専門職業人として成長できる者を養成することを目標としております。

本学では、複数の大学院新専攻分野を開設し、常に社会のニーズと医学・医療の進歩に適応した大学院教育・研究ができるように整備してき

ました。さらに、医学統計、英語でのプレゼンテーションスキル、英語での論文作成能力を習得し、国際的に活躍できる医学研究者・医学教育者・医学に係わる高度専門職業人として生涯成長しつづけることができるよう育成していきます。また、社会人を対象とした大学院進学も推奨し、社会のニーズに対応していきます。このように、医学・医療ならびに社会の進歩を常に見据え、専攻分野や大学教育のあり方を常に検討し、改正に努めていきます。大学院に集う全ての研究者が、円滑に研究活動を遂行し、得られた知識を有効に活用して社会還元に繋げていただくことを期待しております。

今後とも、自立した研究者として医学に対して積極的な研究意欲のある者、探求心を不断に持ち、国際的視野に立って医学を研究できる者、新たな知見や技術を理解・吸収し、自ら成長できる者、豊かな人間性を持ち、人類社会に貢献できる者に広く門戸を開き、大学院への進学ならびに研究活動を推奨していきたいと存じます。

皆様方のさらなるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新春によせて



冒険家たちに倣う「やり抜く力」

看護専門学校 校長 鈴木 昌子

新年あけましておめでとうございます。いつも本校の教育にご尽力賜り心より感謝申し上げます。現代は変動の時代、その直中を生き抜く看護学生への願いを冒険者の言葉を借りて伝えたいと思います。

本校に入学し卒業に至る道のりは一本道のようにありながら平坦とは言えません。一度定めた目標を是が非でも達成するにはグリット（やり抜く力）が不可欠です。グリット（やり抜く力）はペンシルベニア大学アンジェラ・ダックワースが提唱した概念で、「長期的な目標に対する忍耐力と情熱」と定義されています。やり抜く力により得られた結果は、心の底から湧き上がるような自尊心や自分に対する自信や希望を高めます。しかしその境地に至るには、時に難しく、やりがいがあり、苦痛を伴うともいわれています。

この境地に至るプロセスを体現しているのが「冒険家」だと思います。植村直巳氏が「冒険とは（死を覚悟して、そして）生きて帰ることである」

三浦雄一郎氏は「人間にはそれぞれのエベレストがある」「人生とはクレバスだらけである、クレバスのような逆境や試練に直面し人生に絶望しそうな時であっても絶対にあきらめない心を持ち続け、目の前の壁を乗り越えられればと信じて一歩ずつ積み重ねていく、そうすれば必ず前進し、いつしか道は開ける」と述べています。お二人の冒険家に倣うと、なぜ命がけの試練に挑み続けるのか、どのような矜持でことにあたっているのか伝わります。心が沸き立つ目標を掲げ、一歩を積み重ね、やり抜いた時に得られる高揚感と自尊心、これがあるからこそ挑戦し続けるのだと教えてくれています。

様々な試練を乗り越え看護師の資格を掴み取ることは単に目標を達成したという結果に留まらず、やり抜く力を実感させるものだと思います。この経験が変動の時代を生きる力の源となることを願います。皆様の変わらぬご支援をお願いし新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

西部病院 病院長 原口 直樹
整形外科 教授

新年明けましておめでとうございます。日頃より西部病院の運営にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年の西部病院は大変目まぐるしい一年でした。まずは1月に、「専門性を高めた環境でのチーム医療」を主眼とした病棟の再編成が行われました。同時に4月からはじまる働き方改革に向けての院内での体制作りにも取り組んでいただきました。とくに夜間体制を急ぎで再構築、対応してもらわなければならない状況になりましたが、皆さんのご理解とご協力により何とか軌道に乗せることができました。さらには5月に適時調査、7月に病院機能評価があり、その対応に各部署は多忙を極めました。これらに対して全教職員が一丸となって取り組んで下さったことに、心より感謝を申し上げます。

病院機能評価の準備のなかで、1981年に策定された「よこはま21世紀プラン」の内容を読み返しました。そこに横浜の地域中核病院整備の目的

として、「すべての人にその必要とする高水準の医療を必要ときに直ちに提供する」と書かれていることを、今さらですが認識いたしました。あらためてその目的・理念は現在のわれわれが常に胸にとどめておくべきものであると実感いたします。

昨年の西部病院の基本方針として、「地域中核病院の原点に立ちかえる」ことを確認してきました。このために初診予約制撤廃とその受付時間延長、11月の土曜日毎週オープンなどに取り組んでいただきました。さらにこの1月から3階北病棟の開棟がごございます。大変矢張り早の感がありますが、これらの体制作りに一生懸命対応してくださった教職員の皆さんには感謝の言葉もございません。これらのことは必ず大きな成果となって形に表れると信じております。

本年も皆様にとりまして実り多き一年になりますよう、心からお祈り申し上げます。



復活と再生

多摩病院 病院長 長島 悟郎
脳神経外科学 教授

新年、あけましておめでとうございます。今年1年が皆さんにとって、素晴らしい1年になることを願っています。

昨年3月に東横病院が閉院して、間もなく1年が過ぎます。東横病院で働き、いきなり職場がなくなって大変な思いをされた方たちも、何とかかの環境で平静を取り戻し、落ち着きつつあるのではないかと思います。例えば昨年は激動の1年でした。頭に描いていた多摩病院の将来像が、ことごとく砕け散っていった1年だったように思います。新型コロナウイルスパンデミック後を見据えて新たな診療を様々、開始していたにもかかわらず、パンデミック後の患者数の落ち込みは大きく経営に影を落としました。そして、ウクライナ戦争に加えてイスラエルのガザ侵攻に端を発した中東紛争が厳しさを増し、国内では能登半島地震から線状降水帯被害、そして10月の衆議院選挙の与党大敗、アメリカではトランプ政権の復活と、引き続き今年1年を危惧するようなエピソードも多くなりました。昨年6月の診療報酬改定は

急性期医療機関にとっても非常に厳しいものとなり、国を挙げてのベースアップに加えて物価高騰による支出の増加が、多くの医療機関の経営を圧迫しました。

そんな中でも、大学病院入院棟の建て替えが終わり、外来棟も完成し、聖マリアナ医科大学の新たなブランドが動き始めました。岸田政権で見え始めた新自由主義からの決別も進み、物価高騰に対する医療機関への補助も本格化することになれば、少しずつ希望の光が見えてくるのではないかと思います。

世界情勢は予断を許さないままであり、国内でも自然災害だけではなく、サイバー攻撃や猟奇的な犯罪にも細心の注意を払っていかなくてはならない状況に変わりはありません。そんな中でも、人口22万人が居住する多摩区区内唯一の急性期医療機関として、そして人口100万人近くの川崎市北部という医療圏を聖マリアナ医科大学病院とともに担う市立病院として、さらなる発展を遂げる一年になることを願っています。



多様性 (Diversity)、包摂性 (Inclusion)、帰属性 (Belonging)

プレスト&イメージング先端医療 センター附属クリニック 院長 福田 護

あけましておめでとうございます。

プレスト&イメージングセンターは、2025年3月で開院16年を迎えます。多くの方々のご支援で、乳がん医療施設として高い評価をいただいています。深く感謝申し上げます。

近年、乳がん医療の進歩により、患者さん一人ひとりにあった、個別化医療ができるようになってきました。また、以前より増して、病気を持つ患者さんの多様な背景に対して配慮をするようになりました。

患者さんの多様性 (Diversity) には、病状、年齢、性別、ライフスタイル、価値観、家庭環境、社会環境、趣味、宗教など様々な要因があり、医療者はこれらを尊重することが大切です。乳がん治療は、5年、10年にわたり続けられます。その間、病状は変化し、患者さん自身の考えや環境が変化します。再発が起ると、さらに状況が複雑になります。患者さんは、治療開始時と異なる多様な状態になります。

このように、患者さんの多様性を考慮して乳がん医療を実践するため

には、多様性を構築する様々な背景や要因を一つ一つ包み込むようにして行う、包摂性 (Inclusion) の高い医療が必要です。

多様性の尊重と包摂性のある行動は、スタッフ間、法人内の部門間、医療施設間にも必要です。人や組織が持つ多様性を認識し、それを排除しない包摂性の高い行動が求められます。

法人経営と多様性や包摂性は相反することがあるかもしれません。しかし、多様性の尊重と包摂性が高い対応を粘り強く追い求めることにより、滅私奉公ではなく、個性を殺さないで組織に寄与する、心地良い帰属性 (Belonging) の高い組織が構築されます。

乳がん症例の増加により、当院は益々必要とされています。Diversity、Inclusion、Belongingの意味を深く考え、法人の様々な部門との連携を密にして、当院ならでの役割を果たしていきます。

今年もよろしく願い申し上げます。

創業者等追悼ミサ

本学では例年、創業者、故 ステファノ明石嘉間博士が帰天された 10 月 4 日に合わせて「創業者墓参」と「創業者等追悼ミサ」を実施しており、今年度も同日午前中に墓参、午後にはミサを執り行いました。

嘉間博士のお墓は津田山霊園にあります。広々としたスペースには、敬虔なカトリック信者であった嘉間博士に因んだ十字架をモチーフとするお墓が凛と佇んでいます。創立から 50 年を経てもなお、嘉間博士が掲げた建学の理念や精神を脈々と継承している本学ですが、この墓参は、1 年間の法人運営の無事を感謝するとともに、嘉間博士の理念や精神を改めて心に刻み、法人のさらなる躍進を誓う貴重な時間となっています。当日は、前日から降り続く雨が心配されましたが、直前には

すっかり止み、柔らかな日差しが差し込む中での墓参となりました。参列は明石勝也理事長をはじめとする常勤理事のみではありますが、どの理事も法人を代表して墓前に手を合わせ、感謝や誓いとともにより嘉間博士のご冥福をお祈りしました。

同日午後は「創業者等追悼ミサ」を挙行了しました。こちらは常勤理事だけでなく、教職員や学生ら約 300 名が参列する盛大なミサで、小田武彦神父（宗教学 特任教授）が司式を務めました。会場である医学部 6 階の大講堂は厳かな雰囲気包まれ、参列者一同は、嘉間博士、並びに博士とともに法人運営を支えられて既にこの世を去られた数多くの教職員の方々に偲び、祈りを捧げて故人の魂の安息を願いました。

ミサ中の説教では、小田神父から「マ

リアンナ」の由来が嘉間博士の妹の明石志都香さんの修道名にあることなど、本学創立の経緯が述べられました。米国で働いている貧しい日本人出稼ぎ労働者の子どもたちの教育に携わっていた志都香さんでしたが、太平洋戦争中に病気のために帰天されました。「キリスト教の人間愛に根差した生命の尊厳と人間社会への奉仕を実現する社会医療事業を行ってほしい」との遺言を

残された志都香さん。その遺志をしっかり受け継いだ嘉間博士が立ち上げたのが、「マリアンナ」を冠する法人でした。はじめは小さな法人でしたが、多くの教職員の尽力により大切に育まれ、現在の法人へと成長を遂げました。そのような神父の話を聞き、法人の「今」を支える我々一同は、改めて伝統の深みを受けとめました。



司式：小田武彦神父

解剖ご遺体追悼ミサ

10 月 3 日、本学で行われる系統解剖及び病理解剖のために献体された故人を追悼する「解剖ご遺体追悼ミサ」を挙行了しました。この 1 年間に献体された方は 101 名。司式を務める小田武彦神父は、そのお一人、お一人のお名前を真心込めて読み上げ、故人の魂が神のもとで永遠の安息を得られるよう祈りを捧げました。医学部本館 6 階大講堂に集まった約 230 名の役員、教職員、学生一同は、お招きしたご遺族約 80 名とともに、故人のご遺徳に感謝し、諸霊のご冥福をお祈りしました。



「聖水」灌水



明石勝也 理事長



常勤理事 9 名全員による参拝

前 田 賞

第 17 回 前田賞授賞式

11 月 1 日、毎年恒例の前田賞授賞式が挙行されました。

本学第 3 代理事長故 前田徳尚先生が生前に私費を投じて創設された本賞も今年で 17 回目。今回も幅広い職種から多数の応募があり、厳正な審査により下記 5 名が選考されました。

授賞式冒頭、明石勝也理事長が挨拶を行い、本学をこよなく愛し、教職員が活躍することを誰よりも喜ばれていた前田先生のお人柄や、本賞が創立された経緯などが述べられ、そのような賞を受賞した 5 名に対する称賛の言葉が贈られました。また、続く鈴木宜男 同賞選考委員長（総務担当理事）からは、今年度の選考総括とともに、応募者の水準が高く審査員としても評価に苦労した旨のコメントがありました。

最後の受賞者スピーチでは、喜びや感謝の言葉に加え、自身の成果や将来の展望などが熱く語られ、本学の輝かしい未来を予感させました。

■ 佐藤 義典（消化器内科学）准教授 [写真：左]

Long-term Risks of Recurrence After Hospital Discharge for Acute Lower Gastrointestinal Bleeding: A Large Nationwide Cohort Study
(邦題：急性下部消化管出血退院後の長期再発リスクについて、国内大規模コホート研究)

■ 高野 知憲（感染症学）助教 [写真：左より 2 番目]

Inhibitory Effects of Vaginal Lactobacilli on Candida albicans Growth, Hyphal Formation, Biofilm Development, and Epithelial Cell Adhesion
(邦題：膣由来の乳酸桿菌を用いたカンジダ・アルビカンスの成長、菌糸形成、バイオフィルム形成、上皮細胞への接着に対する抑制効果についての検討)

■ 升森 泰（麻酔学）講師 [写真：中央]

日本臨床麻酔学会第 43 回大会における優秀演題賞を受賞

■ 宮川 久弥恵（放射線診断・IVR 学）大学院生 [写真：右より 2 番目]

Was Blind, But Now I See: 10 Tips to Avoid Oversight CT Findings in ER
(邦題：救急における CT 所見の見逃しを防ぐ 10 の方法)

■ 最上谷 拓磨（西部病院リハビリテーション部）主任 [写真：右]

急性期脳卒中患者における口腔機能障害が退院時 ADL および自宅退院に及ぼす影響 - 傾向スコアマッチングを用いた解析 -

—ダイバーシティ・キャリア支援センター—

ダイバーシティ研究助成金、ダイバーシティ表彰（学術分野）について

ダイバーシティ・キャリア支援センター 事務局

2024 年度の採択者・受賞者が決定しました。皆様の今後のご活躍をお祈りいたします。

2024 年度 ダイバーシティ研究助成金 採択者一覧

氏名	所属	職位	研究課題名	助成金額
大橋 充代	解剖学 (人体構造)	助教	男性肥満 2 型糖尿病における低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の発症機序解明	40 万円
川越 康仁	循環器内科学	助教	院外心停止における人工知能に基づく緊急冠動脈造影適応判断支援の有益性の検証	30 万円

2024 年度 ダイバーシティ表彰（学術分野）受賞者一覧

氏名	所属	職位	掲載雑誌	論文表題
小徳のぞみ	循環器内科学	助教	Euro Intervention	Preprocedural physiological Assessment of Coronary Disease Patterns to Predict Haemodynamic Outcomes Post-PCI
鷹尾 直誠	脳神経内科学	助教	Neurology Genetics	Large-scale Whole-Genome Analysis of HTLV-I-Associated Myelopathy Identified Hereditary Spastic Paraplegias
片山 皓太	総合診療内科学	助教	Journal of General and Family Medicine	Association Between Mentorship and Mental Health Among Junior Residents: A Nationwide Cross-sectional Study in Japan



後列左から：伊野副センター長、脳神経内科学 山野主任教授、明石副センター長、総合診療内科学 大平主任教授、高田女性医師・研究者支援部長
前列左から：北川学長、脳神経内科学 鷹尾助教、循環器内科学 小徳助教、総合診療内科学 片山助教、加藤医学部長

創立 50 周年記念事業 菅生キャンパスリニューアル計画

聖マリアンナ医科大学病院 「外来棟」・「エントランス棟」竣工

2024 年 10 月、菅生キャンパスリニューアル計画の一環として建築を進めていた「外来棟」と「エントランス棟」が遂に竣工しました。病院理念である「生命の尊厳を重んじ、病める人を癒す、愛ある医療を提供する」ことの実現を目指し、患者さんや訪問者の利便性や快適さを徹底的に追求して設計して建築された「外来棟」と「エントランス棟」。これらのオープンにより、2023 年 1 月 1 日にオープンした「入院棟」と合わせ、大学病院の診療機能はすべて整備されました。

今後は、これらの施設を最大限に活用し、新病院のビジョンである「多様な高次機能を備え、人に優しく、働きやすく、社会の変化に柔軟に対応できる未来志向型病院」として、これまで以上に市民に愛され、地域医療の発展に貢献できる病院を目指します。



外来棟・エントランス棟 竣工祝福式

2025 年 1 月 6 日(月)のオープンに先立ち、このたびの「外来棟」と「エントランス棟」の竣工を祝う祝福式を執り行いました。これまで大学病院本館 3 階に設置されていたチャペルが「エントランス棟」4 階に移設されたこともあり、今回の祝福式の司式は、カトリック横浜司教区のラファエル梅村昌弘司教様にお務めいただきました。2024 年 12 月 11 日(水)の午前 10 時に開式した祝福式には、明石勝也理事長、北川博昭学長、大坪毅人病院長をはじめとする本学の

役員等、並びに梓設計や戸田建設等の設計・施工にご尽力いただいた各企業の役員の方々など総勢 50 名が参列しました。

特設会場が設営された「エントランス棟」1 階のフロアは、白を基調とした明るく開放的なエリアとなっており、訪れる方々を優しく包み込むデザインとなっています。参列者一同は、凛とした梅村司教様のお祈りのことばに合わせ、このたびの建築工事が無事に竣工したことへの感謝とともに、今後も大学病院を訪れる



梅村司教様、祝福のための「聖水」灌水
方々と教職員の上に神の豊かな祝福が与えられるようお祈りしました。



祝福のお祈り

チャペル祝福式

2024 年 12 月 11 日(水)の午前 11 時から、「エントランス棟」4 階に設置されたチャペルの祝福式が、ラファエル梅村昌弘司教様の司式により執り行われました。1 階のフロアとは対照的に、チャペル内は間接照明による柔らかな灯りに包まれた静謐さ漂う空間となっており、病に悩む患者さんやそのご家族、或いは日々の業務に疲れた教職員が気軽に立ち寄り、心を静めて安息を得ることのできるデザインとなっています。このチャペルは、毎週水曜日に小田武彦神父(宗教学 特任教授)司式によるミサが執り行われる場所でもあり、癒しだけでなく、祈りを通じたコミュニケーションの場としても重要な役割を担っています。

梅村司教様も祝福式の中でその重要性に触れ、「カトリックに所縁のある聖マリアンナ医科大学病院にとって、病院の玄関たる「エントランス棟」にチャペルを設置したことは極めて意義深いことです。キリスト教における「いのち」とは、単に生物学的な側面のみを指す言葉ではありません。神が創造された「いのち」とは、神の愛のたまものであり、人間の尊厳を含む存在すべてを指す言葉で



梅村司教様による厳かで神聖なお祈り

す。病院は「命」を救う施設ではありますが、真の意味で患者さんを救うためには、「命」だけでなく「いのち」をも救うことが重要なのです。その意味で聖マリアンナ医科大学病院は、イエスの述べた「救い」を実現できる選ばれし病院なのです」と、「マタイによる福音書」を用いて説かれました。梅村司教様のお祈りとともに、参列者一同、「いのち」をお預かりすることの尊さを改めて心に刻み、「愛ある医療」の提供をお誓いしました。



梅村司教様、祝福のための「聖水」灌水



心地よい静寂に包まれたチャペル



「いのち」の意義について



明石理事長、北川学長、加藤医学部長、大坪病院長らが参列

創立 50 周年記念事業 菅生キャンパスリニューアル計画

外来棟・エントランス棟 施設紹介

外来棟とエントランス棟の完成までには、全部門・部署間における様々な協力・調整が行われました。診療ブースや部門・部署の配置、各種医療機器や通信機能の配備、清掃・廃棄物管理体制の整備、さらにはテナント誘致に至るまで、全ての部門・部署が連携し、多岐にわたる課題を解決・調整しながらプロジェクトの成功を目指し、実現させました。今後も病院スタッフ一丸となって、ご来院される全ての方々に、より一層安心・安全な医療の提供ができるよう努めてまいります。

1F



エントランス



総合受付



総合案内



メディカルサポートセンター



トリアージカウンター

RF			
9F		機能室	
8F	多目的ホール	臨床講堂	
7F	特設外来/アノム医療外来 遺伝診療部/地域性疾患 診療支援センター	内院長室/看護部/事務部 患者安全推進部 感染制御部	
6F	神経精神科 生化学検査/臨床検査	緩和ケアセンター 臨床研究センター 治療支援/共有資源	
5F	脳神経外科/脳神経内科 リウマチ・膠原病/アレルギー内科 眼科	婦人科/産科 乳癌・内分泌外科	レストラン
4F	呼吸器内科 循環器内科 腫瘍センター/緩和ケア外来	消化器・肝臓内科 消化器・一般外科 耳鼻咽喉科	患者 がん相談 支援室
3F	心臓血管外科/循環器内科 腎臓・高血圧内科 腎臓病センター/形成外科	皮膚科/生体医療センター 麻酔科外来	コンビニ
2F	代謝・内分泌内科 糖尿病センター 内分泌・糖尿病	産科/産後ケアセンター 産科外来	カフェ
1F	皮膚科 皮膚科診療センター	小児科/整形外科 皮膚科・MSC	正面玄関
B1F	リネン室	スキャンセンター	
	北	南	

外来棟 エントランス棟



デジタルサイネージ

▲デジタルサイネージ

当院に関する最新の情報などをデジタルサイネージから発信します。鮮やかで見やすい電子表示なので、紙による掲示よりしっかりご確認いただけます。発信する情報には、利用案内だけでなく、患者さんの待ち情報も含まれます。ご自身の診察の順番を様々な場所で確認できるため、待ち時間を効率的にお過ごしいただけます。



健康診断センター

2F



代謝・内分泌内科 受付



超音波センター 検査室



タリーズコーヒー



検査予約センター



トレッドミル検査室

タリーズコーヒー▲

これまで病院本館正面玄関脇で営業していたタリーズコーヒーが、スペースを拡充してエントランス棟2階に新装オープンしました。診療やお見舞いが終わってホッと一息つきたい患者さんやそのご家族、勤務の合間にリフレッシュしたい教職員などが集う憩いのスペースです。早朝から営業していますので、モーニングを利用していただくことも可能です。

3F



皮膚科・麻酔科 受付



患者様のアート作品を展示

▶セブン・イレブン

24時間365日休むことなく稼働する病院にとって、共に寄り添って営業してくれるコンビニの存在はとても大きいものです。エントランス棟3階に新規オープンしたセブンイレブンは、24時間365日、年中無休で営業します。患者さんや日中勤務の教職員はもちろんですが、これまで深夜の食事調達に困っていた医療スタッフにはとても頼もしい存在です。



セブン・イレブン

4F



呼吸器内科・外科 受付



がん相談支援センター



チャペル

東横病院聖堂から移設した
「十字架の道行」
(イエスの受難・復活を熟想する 15 留)

5F



脳神経内科・外科・眼科 受付



会計

▶ Cafe&Meal MUJI

無印良品を展開する(株)良品計画が運営する「Cafe&Meal MUJI」が、エントランス棟5階にオープンしました。「素の食はおいしい。」というテーマのもと、自然の恵みを豊富に受けた旬の素材の良さを生かした、身体にやさしくて美味しいメニューを取り揃えています。お食事だけでなく、フランネルパジャマ、ルームウェア、インナーなど、入院中を快適に過ごすことができ、さらには退院後の日常生活にも使用できる衣料品や生活雑貨の販売も行っています。



Cafe&Meal MUJI

6F



神経精神科 受付



神経精神科

7F



特別診察外来 受付



特別診察外来 診察室



特別診察外来 診察室

8F



多目的ホール

>>> 待合

来院された患者さんたちは診察を待つまでの間、とても不安な時間を過ごされます。そんな患者さんたちの不安を少しでも和らげて差し上げたいという思いから、待合スペースは落ち着いた雰囲気になるようデザインされています。



4階 待合



3階 待合



脳血管内治療科 待合



産科 待合



小児科 待合

>>> 診察室



婦人科 診察室



婦人科 処置室



婦人科 問診室



神経精神科 診察室

>>> 院内巡回バス

新しく外来棟やエントランス棟がオープンしましたが、病院本館の解体工事が完了するまでの約2年間は、バスロータリーから新棟入口へ向かうまでの動線が長く、患者さんにはご不便をおかけします。特に足腰が不自由な方やご高齢の方には大きなご負担をおかけします。そこで、少しでも患者さんのご負担を軽減して差し上げたいとの思いから、バスロータリーと外来棟の正面玄関とを繋ぐ巡回バスを運行することといたしました。足腰が不自由な方やご高齢の方を中心に、行きも帰りも快適に移動していただけるよう、安心・安全な運行に努めます。



今回の新棟完成により、営生キャンパスリニューアル計画は次なる段階へ進みます。約2年後のグランドオープンに向け、病院本館の解体や新たな駐車場、ロータリーの整備などに着工します。工事期間中はご来院される皆様方にご迷惑をおかけいたしますが、一層快適で利用しやすい環境整備に努めてまいりますので、是非ご期待ください。

呼吸器外科学 講座

教室・施設紹介 29

「美しく」、「確実に」、治す
呼吸器外科治療の到来

呼吸器外科学 主任教授 佐治 久

呼吸器外科学講座では、原発性肺癌をはじめ、転移性肺悪性腫瘍、良性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸、嚢胞性肺疾患、胸壁疾患、先天性肺疾患、慢性胸胸、手掌多汗症など、肺移植を除くすべての疾患に対する手術を年間 280 例以上行っています。近年の医療技術の進歩は目覚ましく、胸腔鏡や機能温存手術が実現可能となり、さらには単孔式手術のように小さな傷一つで治療が完了する「美しく治す」外科治療が可能となりました。私たちは常に「身体に優しい手術」を心がけ、患者さんに寄り添った医療の提供を目指しています。

また、薬剤開発も急速に進んでおり、進行肺癌に対しては呼吸器内科、放射線治療科、病理診断科との密接な連携により、抗がん剤、分子標的治療、免疫

チェックポイント阻害薬、放射線治療などを組み合わせた集学的治療を提供しています。これにより「確実に治す」ことを目指した肺癌外科治療が可能になり、患者さんに「あきらめない肺癌外科治療」を提供できる状況が整いつつあります。

私たちは、川崎北部の高度先進医療機関として地域の病院やクリニックの先生方と協力し、地域医療の発展に貢献しています。今後も、呼吸器外科専門医、がん治療認定医、気管支鏡専門医などの資格を有する熟練スタッフが責任を持って最新の治療を提供し、地域の皆様の健康を支えることをお約束いたします。引き続き、呼吸器外科学へのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

入院棟 11 階特別病棟回診にて



受賞・表彰

令和 5 年度医学部成績優秀者顕彰および
令和 6 年度学業成績等優秀学生奨学金授与式

10 月 11 日の昼休みに、顕彰および授与式が執り行われました。多くの同級生や先輩、後輩、教職員に見守られる中、北川博昭学長、加藤智啓医学部長より賞状と副賞（図書カード 1 万円）が受賞者に授与されました。受賞者に対して、ギャラリーからは惜しめない賛辞が贈られました。

各選考については、成績優秀者は令

和 5 年度学年末成績の結果に基づき各学年の成績上位者 5 名が選出され、また、1～4 年次を通じて、特に成績が優秀であった第 5 学年の 1 名に、令和 6 年度学業成績等優秀学生奨学金として 100 万円が給付されました。

次年度も、医学部生のさらなる頑張りに期待しています。

教学部 学務課 佐藤 剛



継 灯 式

看護専門学校 11 月 1 日

患者さんに寄り添う灯となるために

看護専門学校 1 年 A 組
正能 愛里

目標とする看護師像を思い描き、実現するために入学して半年が経ちました。入学当初は、基礎分野の学習を通して「看護とは何か」を追求し、仲間と共に学びを深めてきました。現在は、基礎看護学を中心とした専門分野の学習も始まり、生命と向き合いながら、患者さん一人ひとりに寄り添えるよう高い志を持ち勉学に励んでいます。

継灯式で私たち 48 回生は「共に支え合い、励まし合いながら『仲間同士』の信頼関係を築き、学び、看護を深めます。『病気ではなく、人を看る』ことを常に意識し、患者さんに寄り添える看護師を目指します。日々、多くの方が私たちを支えてくださっていることを忘れず、命と心に向き合いながら成長し続けます」と誓いました。私たちが引き継いだナイチンゲールの灯は、看護の精神を象徴する大切な灯です。暗闇の中で灯るこの光は、困難の中でも人々の命と心を守り、寄り添い続ける覚悟と責任を示しているのだと感じました。その灯を胸に、患者さんの心に光を灯すためには、常に患者さん

の視点に立ち、思いに寄り添うことが必要だと感じました。そして、日々の講義や演習で、知識の習得や技術の向上に向けて精進し、患者さんに安心を届ける存在になりたいという思いが強くなりました。

式では、理事長や、校長、看護部長、看護学校の先生などたくさんの方からお言葉をいただきました。日々お世話になっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、常に「看護とは何か」を追求し、患者さんの心と、自身の看護師への道を照らせるように、仲間と共に歩んでいきます。そして、この灯を次世代に繋いでいけるように、患者さんに寄り添える看護師を目指したいと思います。

聖マリアンナ医科大学「クリスマスの集い」
心温まる特別な夜

2024 年 12 月 17 日、本学の特別教育施設聖堂で「クリスマスの集い」が開催され、地域住民や学生、教職員ら約 40 名が参加しました。キャンドルの光に包まれた幻想的な雰囲気の中、明石嘉浩キリスト教文化センター長の挨拶で幕を開け、MCC（マリアンナコーラスクラブ）の合唱や小田武彦神父の聖書朗読が行われました。厳かな空気の中、聖歌「しずけき」や「もろびとこぞりて」が歌われ、参加者は祈りを捧げました。MCC によるミニコンサートでは 6 曲が披露され、澄んだ歌声と見事

なハーモニーが聖堂全体を包み込みました。

この集いは、地域と大学の絆を深める場として、貴重なひとときとなりました。参加者からも「心が癒された」、「クリスマスの本当の意味を感じた」などの声が寄せられ、静かで温かな特別な夜となりました。

総務課 岡野 樹



創立 50 周年記念事業募金

現在実施している菅生キャンパスリニューアル計画は 2024 年秋に外来棟の改修、エントランス棟の新築が完了し、2025 年 1 月 6 日より新たな診療施設での病院運営が始まります。今後は外構整備を進め、2026 年秋にはグランドオープンを予定しております。これらの整備により、大学病院は先進的かつ高次で良質な医療を提供する空間と優れた医学教育環境の場が整い、教育・研究・診療環境が格段に向上いたします。

皆様におかれましては、本学の教育・研究・診療活動にご理解いただき、引き続き当法人の活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金目的：創立 50 周年記念事業の 1 つである
菅生キャンパスリニューアル計画への支援

募集開始からの受入金額：1,404,376,299 円 (2024.10.31 現在)

2023 年度下期から 2024 年度上期 (2023 年 11 月 1 日から 2024 年 10 月 31 日) の寄付金受入状況は 226,391,168 円 / 264 件となっております。皆様からの多大なるご支援に厚く御礼申し上げますとともに、ここにご芳名を掲載させていただきます。

なお、創立 50 周年記念事業募金においては、これまで多くの方々よりご支援をいただいておりますが、2024 年 9 月 30 日をもって募集を終了させていただきました。ここに皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。

◆寄付者のご芳名【法人】

医療法人石岡脳神経外科病院	理事長	小林 博雄
医療法人社団 登戸クリニック	理事長	友廣 忠寿
医療法人社団 亮成会	理事長	安藤 亮
医療法人社団伊豆七海会 熱海所記念病院	理事長	横川 秀男
医療法人社団佳清会 野村クリニック		
医療法人社団健由会 すずき内科クリニック	院長	鈴木 健吾
医療法人社団讃光会	理事長	竹野 景海
医療法人社団誠真中央会 静岡中央クリニック	理事長・院長	門司 明夫
医療法人社団福西内科クリニック	理事長	福西 康夫
医療法人社団理桜会 向ヶ丘胃腸・肛門クリニック	理事長	櫻井 丈
医療法人和会西毛病院	理事長	武田 滋利
株式会社マリアンナ・ワールド・サービス	代表取締役	水越 真
聖医会 中四国支部		
聖医会 福島県支部		
聖医会 北海道支部		
聖医大 外科同門会		
大協建設株式会社	代表取締役	川邊 貴士
タケダ株式会社		
戸田建設株式会社横浜支店	支店長	縄田 浩
PTSD 多職種支援チーム (神経精神科)		
水庭クリニック		

※お申し込み時に、掲載「不可」又は「意思表示のなかった方」につきましては、芳名は掲載しておりません。
掲載をご希望される場合は、お手数ですがお問合せ先までご連絡くださるようお願い致します。

◆寄付者のご芳名【個人】

(順不同、敬称略)

青木 康之	加藤 隆之	高田 光敏	平尾 隆
赤澤 努	金本 大成	高橋 恵	平澤 彰子
明石 嘉浩	上嶋 亮	高橋 康彦・高橋 洋子	福嶋 静
秋澤 暢達	亀井 俊介	高柳 和枝	福地 弘子
浅井 大輔	川瀬 弘一	滝澤 将人	福西 康夫
安達裕一郎	川邊 貴士	竹島 雅美	藤田 和彦
安藤久美子	北川 博昭	武田 滋利	星 恵子
安藤 史子	北村 哲也	武田 千尋	細谷実知博
生垣 悦子	木全 眞理	田中 輝子	堀越 健
伊佐早健司	久保田 泉	田中 宏	馬田ヒフミ
石田 翔士	久保田隆文	田邊 弘美	松村 純子
伊東 哲也・伊東 裕子	久保寺宗成	田邊満津子	松本 直樹
伊藤 弘昭	栗田 和弘	玉岡 徹	眞鍋周太郎
伊藤容次郎	黒瀬 紀子	知念 貴子	眞鍋真理子
今村 論	黒田 隆	津久井雄也	水野 幸一
岩越 和幸	建持 岳史	鶴田 憲一	南 健
宇井 直也	小久保 豊	寺沢 浩平	望月 篤
植村 博之	小島 輝也	遠山 裕樹	望月 浩司
植村 伶央	北川学長の お友達	徳丸 忠昭	矢沢きよみ
大岡 重光	五反田光子	鳥飼 圭人	柳 栄浩
大川 修	小塚 隆司	内藤 恵美	矢原 和子
大木 康弘	小林 博雄	中川 禎介	山崎 顕
大久保道子	小林 稔・小林 美佳	中島 秀喜	山下 俊也
太田 有紀	齋藤 陽	長瀬 良彦	山田 恭司
大坪 毅人	笹本 優佳	中津 康	山田 隆之
大場有希子	佐野 成一	中野 絢斗	遊木 正俊
大淵麻以子	白石 眞	名古屋和壹	横山 勝征
岡田 幸法	杉田 隆	根岸 賢一	吉澤 正利
小栗 華奈	鈴木 英介	根本真一郎	吉田 繁和
小田 武彦	鈴木 桂子	長谷川雅一	吉田 稔
小野寺憲治	鈴木 聰子	蜂谷 勇治	吉田 怜右
柿沼真由美	鈴木由美子	林 毅	吉永麻里子
笠井 謙和	須藤 裕子	原 眞由美	米山 喜平
風間 暁男	染村 祥	久岡 和彦	脇口 宏之
風間 吉彦		依道 淳	渡邊 敦郎・渡邊 優子

教育研究支援募金

募金目的：教育研究活動への支援を目的とした募金

2023 年度下期から 2024 年度上期 (2023 年 11 月 1 日から 2024 年 10 月 31 日) の寄付金受入状況は 4,710,000 円 / 18 件となっております。皆様からの多大なるご支援に厚く御礼申し上げますとともに、ここにご芳名を掲載させていただきます。

ご寄付のお手続き

教育研究支援募金は以下の方法でお手続きができます。

①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

※払込取扱票をご希望の方は財務部寄付募集推進室までお問い合わせください。

②インターネットでのお申し込みによるクレジットカード・ペイジー等での決済

※お申し込み時に、掲載「不可」又は「意思表示のなかった方」につきましては、芳名は掲載しておりません。
掲載をご希望される場合は、お手数ですがお問合せ先までご連絡くださるようお願い致します。

◆寄付者のご芳名【個人】

(順不同、敬称略)

岩井 久幸	添田 和俊	松浦健太郎
小黒 清貴	露木 良治	松山 年男
木津 りか	仲三河賢一	渡邊 昭夫・渡邊 ハツイ
角 直樹	原田 智雄	

お問い合わせ先

学校法人 聖マリアンナ医科大学 財務部寄付募集推進室
TEL : 044-977-8111 (代表) (内線 5854、5856)
E-mail : kifusuishin@marianna-u.ac.jp



詳細はホームページをご覧ください

マリアンナ寄付

検索



聖マリアンナ医科大学



学校法人 聖マリアンナ医科大学は、川崎市市制100周年記念事業と全国都市緑化かわさきフェアを応援しています。



かわさきSDGs
ゴールドパートナー

川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

第67回 東日本医科学生 総合体育大会 (夏季)

剣道部

剣道部は週3日(＋試合など)の活動を通して日々研鑽を重ねております。経験者(看護含め)、初心者、マネージャーも含めて現在は18名の部員がいます。春の医歯薬獣大会では、主将3年向林が準優勝しました。東医体団体戦では惜しくも、成



績を残すことができませんでした。東医体個人戦で5年山口が準優勝、3年向林がベスト8となりました。個人戦準優勝は、聖マリアンナ医科大学剣道部の中でも最高の成績となり、部員一同とても喜んでいました。決勝戦では、練習試合等で繋がりを得た他校が共に聖医大を応援してくださり、部活を通じた他校との繋がりも感じました。

各自が試合・練習を通して、反省点を見つけOB・OGの方々、先輩後輩ともに相談し合い、さらに上を目指している部活です。朝練・自主練などを行う部員もいます。例年徐々に辛くなる暑さの中でも、皆で頑張っています。少し堅いイメージがありますが、剣道好き部員同士仲良く、楽しい部活です。



バドミントン部

私たちバドミントン部は、30名の部員が在籍し、月曜・水曜・土曜の週3回、練習に励んでいます。初心者から経験者まで、幅広いレベルのメンバーが集まり、それぞれが自分のペースでスキルを磨きながら、楽しくプレーしています。練習は、基礎的なショットやフットワークの確認から、試合形式の練習まで幅広く行われています。お互いにアドバイスを交わし、切磋琢磨することで、

個々の成長を目指しながら、仲間と共に充実した時間を過ごしています。

東医体では全員が悔しい結果に終わりましたが、女子ダブルスの個人戦ではベスト20に入りました。トップには届きませんでしたが、それでも努力の成果が少しずつ現れていることを感じました。

最後になりましたが、日頃から支えてくださっているOB・OGの皆様、ならびに保護者の皆様からのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。これからも、さらなる飛躍を目指して努力を続けてまいりますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。



空手道部

押忍、失礼します。

私たち空手道部は、永田師範、顧問の長田先生のご指導の下、心技体の向上を目指して日々の稽古に励んでおります。

15名が所属し、その半数が入学後に競技を始めました。初心者から黒帯保持者まで、お互いが切磋琢磨しながら技を磨いております。また学業・生活面においても、気軽に先輩や同期が相談に乗ってくれるなど、部員の絆が強い部活です。

今年度の東医体では、女子個人形で準決勝進出、個人組手でベスト8入りしたほか、人数の関係で約10年ぶりに参加が叶った男子団体戦で、準々決勝進出を果たしました。みな、昨年度をはるかに上回る戦績を残し、来年へ向けて、収穫の多い大会となりました。

今年、空手道部は創部45周年を迎えます。今日に至るまで、先生方

の情熱や不断の努力によって、幾度の困難を乗り越え、数々の成長を収めてきたと思います。皆様からの温かいご支援に心から感謝申し上げるとともに、さらなる発展を目指して精進して参ります。



ゴルフ部

私たちゴルフ部は、東医体において女子団体準優勝、女子個人優勝という成績を取めました。週2回の練習に加えて、月1回のラウンドを行い、夏期休業期間には東医体が開催された栃木県の風月カントリークラブで、部員17名が参加する合宿を実施しました。猛暑の中、ラウンドと練習を繰り返し、ゴルフに真摯に向き合った合宿は、部員全員にとって大きな成長の場となりました。

ゴルフ競技では、出場選手が女子4名、男子5名に限られているため、部内で選考会を行いました。選考を突破した選手たちは、さらに多くの時間を練習やラウンドに費やし、東医体に臨みました。惜しくも選手に選ばれなかった部員も、キャディとして東医体に参加し、サポートしてくれました。これらの協力や努力が結びつき、今回の成果につながったと感じています。

ゴルフ部では、約7割が初心者であり、先輩が後輩に教える形で

活動しています。大学からゴルフを始めた部員も大会に出場しており、今後も指導に力を入れ、部全体としてさらなる高みを目指していきたいと考えています。



第67回 東日本医科学学生 総合体育大会(夏季)

硬式庭球部

聖マリアンナ医科大学硬式庭球部は男子部14名・女子部24名の計38名で活動しています。下級生の人数が多くエネルギー溢れ、学年を跨いで仲良く部活を行っています。

さて、8月1日～8日に山中湖にて東医体が開催されました。我々は、大会の約1週間前から開催地で合宿を行い大会に挑みます。開催地は標高が高く涼しいためテニスに臨み

やすい環境で、有意義なテニスライフを送ることができました。東医体が始まると各校が緊迫感のある試合を繰り広げ、プレーヤーだけでなく応援も手に汗握る見ごたえのある試合ばかりでした。東医体ならではの雰囲気味わい、応援の力は偉大なものだと実感しました。結果は、男子は惜しくも初戦敗退となりましたが、女子はベスト8に入り昨年よりも好成績を残すことができました。

我々が充実した部活動を行えるのもひとえにOB・OGの皆様、諸先生方や大学のご支援のおかげです。部員一同深く感謝しております。末筆となりますが、皆様のご多幸をお祈り申し上げ部活動報告とさせていただきます。



バレーボール部

バレーボール部は、今年度の東医体で男子部・女子部ともに予選を突破することができませんでした。悔しい結果となりましたが、コロナ明けの2回目となる今年の大会では、他大学との交流が活発に行われ、試合の際にはお互いに応援し合う場面が多く見られました。私たちの試合中には、他校の選手が応援に駆けつけ、複数の大学で応援歌を歌ったり踊ったりするなど、会場全体が盛り上がりを見せました。こうした他大

学の絆は、東医体をさらに楽しいものにし、選手たちにとって貴重な経験となりました。大学のバレーボール部は、大学内でも特に仲が良い部活として知られていま



卓球部

現在、卓球部は男子8人、女子7人の計15人で活動しています。第2アリーナ専用卓球場にて、月曜日と金曜日の週2回の全体練習、週1回の自主練習を行っています。先輩、後輩関係なく教え合い、少人数ならではのアットホームな雰囲気です。日々練習に励んでいます。また、今年度から外部コーチをお呼びし、さらなる技術向上に努めております。試合

は年に6回程度あり、それぞれの試合を通して自身の練習の課題を見つけ、日々の練習に活かしています。

8月1日～5日の5日間、山形県総合運動公園にて東医体が行われました。シングルスでは、2回戦進出を果たした選手が多く、さらにダブルスでは男女ともに3回戦進出を果たしました。今までの練習成果を発揮することができ、無事に東医体を

終えることができました。

今後もさらに練習を重ね、部員一人ひとりが納得のいくプレーができるように精進してまいります。



ヨット部

7月31日から8月4日にかけて、江の島で東医体が開催されました。軽風のコンディションが続き、繊細な舵取りと高度な技術が求められる、技術勝負の展開となりました。選手たちはこれまでの練習の成果を存分に発揮し、白熱したレース展開の中、全体で12位という安定した成績を収めました。特に今年度は、数人の部員がコスプレをしてレースに臨み、会場の注目を集めるパフォーマンスを披露しました。このコスプレは部員たちの、「来ていただいた観客にスポーツだけでなく大会全体を楽しんでもらいたい」とい

う想いが込められており、毎年、我が校のヨット部はそのエンターテインメント性とユーモアで観客や他校の選手たちから高い評価を受けています。今年も例年に負けないほどの注目を浴び、観客を魅了する活躍を見せました。

このような独自のスタイルを通じて、我が校の部員たちは競技面だけでなく、観客を楽しませることに力も注ぎ、東医体に華やかな彩りを添える存在として優勝に匹敵する活躍をしました。



世界に羽ばたく学生達を訪聞

学長 北川 博昭

医学部 5 年生の選択制臨床実習が 2024 年 10 月～ 11 月にかけておこなわれました。全ての座学が終了した学生は 10 ヶ月間かけて内科系・外科系診療科のクリニカルワークシップを終えると、母校を含めた国内・外の希望施設に約 1 ヶ月間の臨床実習を行えるカリキュラムが組まれています。海外を希望する学生は、12 校ある協定校の中から自分が希望する施設を選び、先方の

受け入れ診療科や期間、宿泊施設などの調整をおこない、双方で受け入れが可能となった場合に実習許可が下ります。協定校との打ち合わせを含めた国際的な交渉は国際交流センターが中心に行っています。今年は 11 名の学生が海外を希望し、学生を韓国、台湾、タイ、インドなど世界各地に送り出すことができました。

出発前にビザの取得や必要な語学力の指導を行い、国際交流センターが彼らとの連携を密にとり留学生の強い味方となりました。私の役目は学生が海外でどのように学習しているかを視察し、協定校の学生に講義や情報を提供し、学生同士で議論できる場を提供する事でした。また、協定校の学生が本学で学べる機会が得られるよう本学を紹介し、双方の学生同士が学び合えれば良いと思っています。

まず台湾の国立成功大学（台南市）を訪れました。羽田から深夜便で上海経由高雄空港まで行き、空港から高速道路を 1 時間ほど走ると成功大学に到着します。本学の救急医学で学んだ除先生が空港まで迎えに来てくれました。翌朝 7 時 30 分から胎児治療の実験に関する講演の機会が与えられ、終了後に成功大学の研修医や医学生と「将来の外科医について」をテーマに意見交換をおこないました。台湾の学生は小学校から英語教育を始め、英語での質問には活発に答えていました。学生からは小児外科医は少子化でどのように手術経験を積むことができるのかが議論になりました。また、本学の学生 3 名が彼らと英語で討論している姿を見て大きな夢が描けました。成功大学の学長や病院長との懇話会では少子化の進む台湾は日本と同じように高齢化社会に突入する不安や将来の悩みを抱えていることを窺い知ることができました。

続いて翌週にはタイのコンケン大学（コンケン市）への訪問です。羽田からバンコクに向かい、そこから 1

時間ほど国内線を乗り継ぎコンケン空港に到着です。早朝でしたが大学から迎えが来てくれたので大学に近い、学生が宿泊しているホテルに宿を取りました。コンケン大学はコロナ前から本学との交流が活発で、午後から医学部長と意見交換を行い、その後、小児外科の医師および研修医を対象に「胎児治療における革新：外科的介入と将来の展望」をテーマに講演を行いました。日本に対する憧れを持つ学生が多く、約 30 名の学生が本学の紹介を聞きに来てくれたことに驚きました。また、スリナガリンド病院（コンケン大学附属病院）を訪問し、救急部で臨床実習中の本学学生や心臓外科手術の助手をしている学生を励ましに手術室を訪問しました。現地の学生は午後 5 時過ぎても実習が続いており、週末は急患が来ると呼ばれるそうです。日本にきたコンケン大学の学生は午後 5 時に帰宅できる日本の学生を羨ましく思うと話していたのが印象的でした。まだタイでは働き方改革は普及されていないようでした。

11 月初旬の連休明けは今年最後の



コンケン大学長と面談、コンケン大学の学生達との交流



訪問地、南インドの NITTE 大学（マンガロール市）を訪問しました。羽田からシンガポール経由でマンガロールに到着し、さらに 1 時間ほど国内線を乗り継いでマンガロール空港に到着です。今年は本学から 2 名の学生が留学しました。インドでは医学部への女性進学者が増え、1 学年の学生数は 250 名で約半数が女性でした。ここでは「10 年後の医療の未来像」というタイトルで講演を行い、活発な意見交換が行われました。人口が世界一になったインドでは富裕層は増えましたが貧富の差が激しく、モダンな建物の隣では裸足でバナナを売っている屋台があり、道端で魚をさばいて売っている光景が目につ

まりました。NITTE 大学は、宮崎大学との共同研究プロジェクトを実施しているため、日本で学位を取得した研究者は流暢な日本語を話していました。

短期間の 3 カ国訪問ではありませんでしたが、本学 5 年生が海外でも十分通用する語学力と臨床能力を持っていることを実感し、提携校とのつながりをより深いものにすることができました。コロナ禍で海外との交流が鎮国状態になっていた時代を急速に軌道修正できるよう、多くの学生の参加を希望しています。また、アジア諸国の学生同士の交流を通じ、将来の国際共同研究や国際支援につながる夢を持っていました。



台湾の成功大学の学生達、本学から研修に行った 3 名



南インド NITTE 大学

附属病院 施設だより

◆多摩病院◆

2024 年度 職場の福利厚生充実を目指して

多摩病院では、キッチンカー、マルシェ（農協野菜、パンの出張販売）を誘致し、職員の皆さまの日常に「楽しみ」と「便利」を提供し、働く環境のさらなる充実を目指し、取り組みを開始しました。背景には、昨今の働き方改革や福利厚生の充実への期待がありました。常に緊張状態にある医療従事者にとって、ランチタイムは貴重なフレッシュの時間です。しかし、院内食堂だけでは選択肢が限られ、周辺エリアまで出向く時間も限られています。そこで、「職場で多様な選択肢を提供できないか？」という声を受け、地域と連携した取り組みを模索しました。

キッチンカーではおしゃれなカフェメニューやランチボックスを、マルシェでは地場の新鮮野菜や果物を、パンの販売では焼き立ての香ばしいパンを届けています。利用者からは「ささやかな楽しみが増えた」「新鮮な野菜をお得に買えるのが大変便利」「焼き立てのパンを楽しめるのは嬉しい」といった声が寄せられています。この取り組みを通じて、職場の活気が増し、従業員同士のコミュニケーションのきっかけにもなっています。今後も働く一人一人の声を耳を傾け、さらなる充実を図っていく予定です。

総務課人事係 組原寛之



→パン出張販売第 1.3 火曜日 11:45-14:00 に開催中
←農協出張販売は 2 階ホワイエで第 1.3 火曜日 11:00-13:00 に開催中
→キッチンカーは病院裏手に平日 11:30-14:00 に出店中

◆西部病院◆

横浜市旭区で市民公開講座を開催

12 月 2 日 (月) 午後、旭区民文化センター「サンハート」にて、市民公開講座を開催いたしました。横浜市民病協、旭区医師会、旭区役所の後援をいただき、2 月の大和市に続いて現地開催となりました。

今回は、生活習慣病に焦点を当て、「いつまでも健やかに～腎臓病と糖尿病 予防と治療～」と題し、3 名からそれぞれ 30 分の講演と質疑応答が行われました。

進行 副院長 内藤正規

講演①よくわかる慢性腎臓病～知っておきたいタンパク尿の話～

腎臓・高血圧内科 主任医長 町田慎治

講演②知って欲しい最近の糖尿病診療～わたくしの備忘録から～

代謝・内分泌内科 部長 方波見卓行

講演③知っておきたい食生活の基礎知識

栄養部 部長 柴田みち



開場前から多くの方が集まり、最終的に 201 名に御来場いただきました。参加者の皆様はメモを取りながら熱心に聴講、質問される姿が見られ、有意義な講座になったと手応えを感じることができました。また、講師をはじめ、患者支援センターや総務課など多部門のスタッフが協力して講座を円滑に開催することができました。

開催に向けてご協力いただいた関係者の皆様、チラシの配架やポスター掲示などご支援くださいました旭区役所・瀬谷区役所及び関係施設、相模鉄道各駅、相鉄企業様の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

事務部 部長 前田光一郎

◆プレスト&イメージング 先端医療センター附属クリニック◆ クリスマスツリー設置

当院のエントランスフロアに 11 月 8 日にクリスマスツリーを設置しました。「しゅりりボンズハウス」という新百合ヶ丘を拠点に乳がん患者のサポート活動を行うボランティア団体との連携により実施しました。プレストセンターをイメージさせる装飾のツリーが受診に訪れる多くの患者様の目にとまり、癒しに繋がっています。

B&I センター 事務室長 小林 圭



聖マリヤンナ医大新聞編集委員会 委員名簿

(2024 年 8 月 1 日現在)

- 委員長 藤谷博人 [スポーツ医学 主任教授]
- 委員 船橋利也 [生理学 主任教授]
- 竹村 弘 [微生物学 主任教授]
- 大平善之 [総合診療内科 主任教授]
- 鈴木昌子 [看護専門学校 校長]
- 中村孝史 [総務部 部長]
- 鈴木安穂子 [教育学部 参事]
- 前田光一郎 [西部病院事務部 部長]
- 松岡正代 [多摩病院広報戦略室 主幹]
- 清水朋子 [栄養部 部長]
- 日下部あずさ [看護部 部長]
- 奥島英明 [総務部総務課 課長]
- 内田絵海 [総務課]